

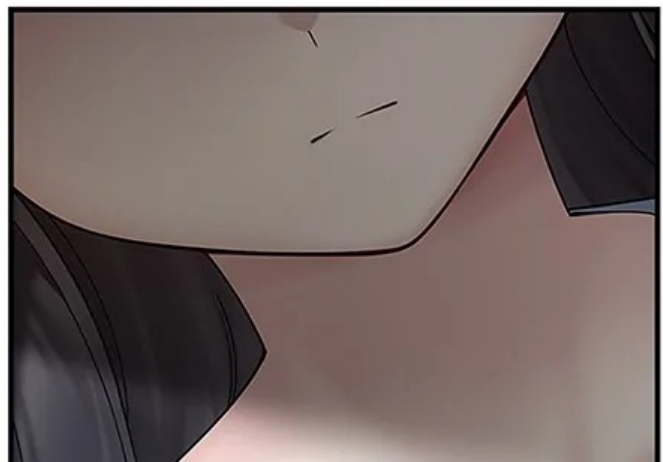
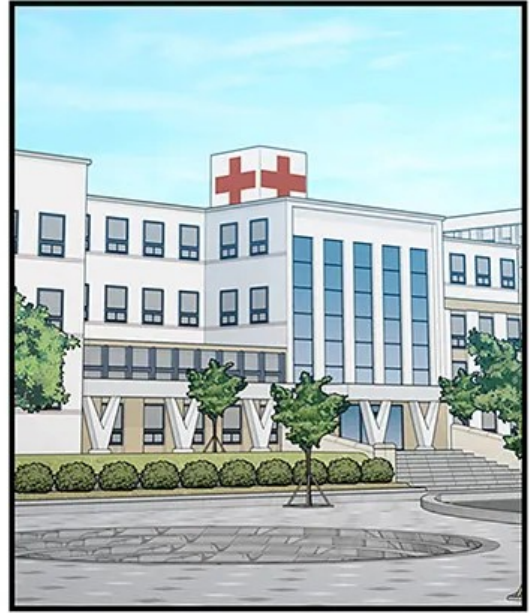
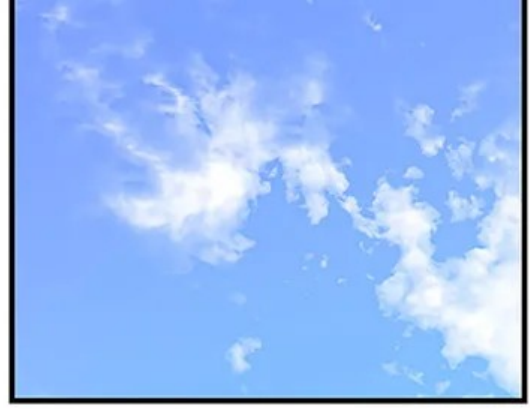
3



イヌカミ

作画 蘭夢

原作 ぽんだん









でーきたっ！

お兄ちゃん
これ何だと
思う？

お墓？

ブー！
お兄ちゃんの
バカあ！

これはね
あたしと
お兄ちゃんが
結婚したら
住む家なの！

大きくなったら
お兄ちゃんのお
嫁さんになるもん！

？

ありがとう

一人で来ると
気が重くて…



あ…

僕って…
こんなに
脆^{もろ}かったんだ



それとも
彼女のせいで



弱くなった
のかな？



でも
どうして
だろう



一人で無理して
耐えてきた僕より



ずっと頼もしくて
強い感じがするのは

めやはりはまだ
意識が戻らず
寝たきりで

かと言って
過去にも
戻れず

今のこの状況は
何一つ変わらない
というのに



彼女が僕の孤独を
癒してくれるから

まるですべて
許されたような
気分になってしまっ





勇気を出せる
かもしれない



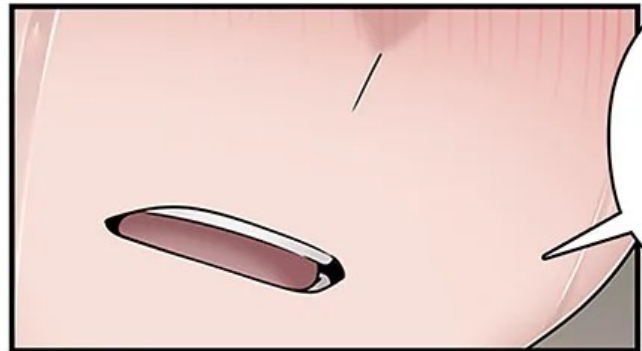
もしかしたら...



もしかしたら
彼女になら



...



僕のせい
なんです



?

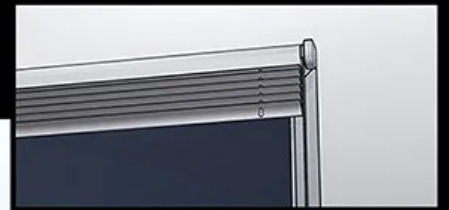




だから誠意に免じて
一回だけデートして
あげよっかな〜
って思ってるんだ〜

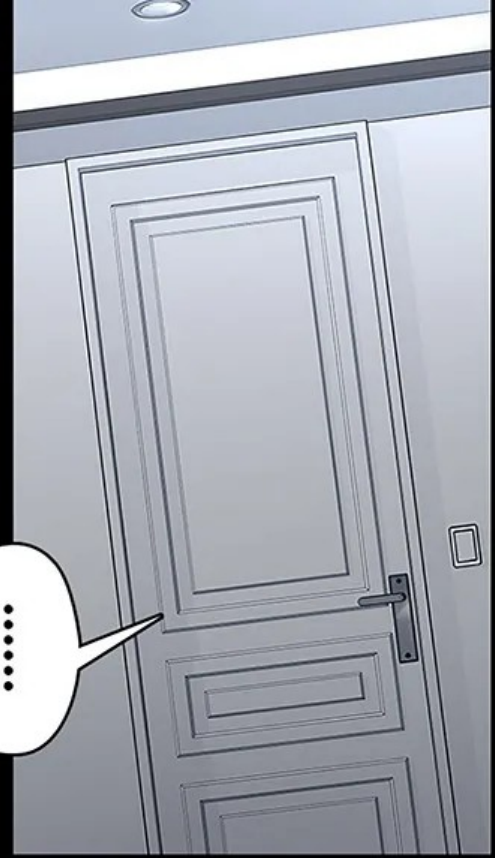
付き合う前
にお父さんに
紹介しなきゃ
ダメよめあり

はあ〜
めんど〜...



誰?



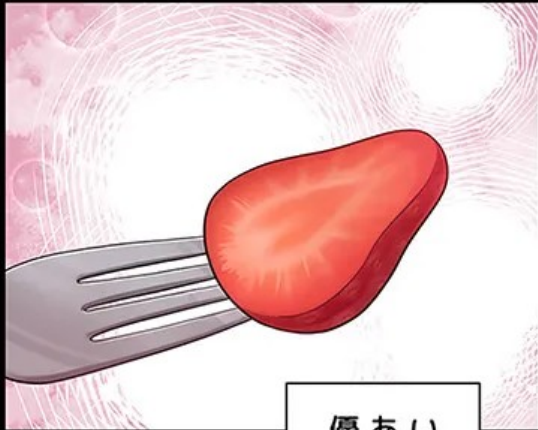


これはね
あたしと
お兄ちゃんが
結婚したら
住む家なの！

大きくなったら
お兄ちゃんのお嫁さんになるもん！

子どもの頃から
お兄ちゃんが
大好きだった

同い年の子より
大人びていて



いつも
あたしのことを
優先してくれた



不愛想に
見えても





お、俺と
付き合おう
くださいー

お兄ちゃんのほうが
かっこいいもん



連絡先
教えてよ

お兄ちゃんのほうが
ずっと優しい
んだから



えっへん

それから
妹のあたしは
世界で一番
可愛い女の子！



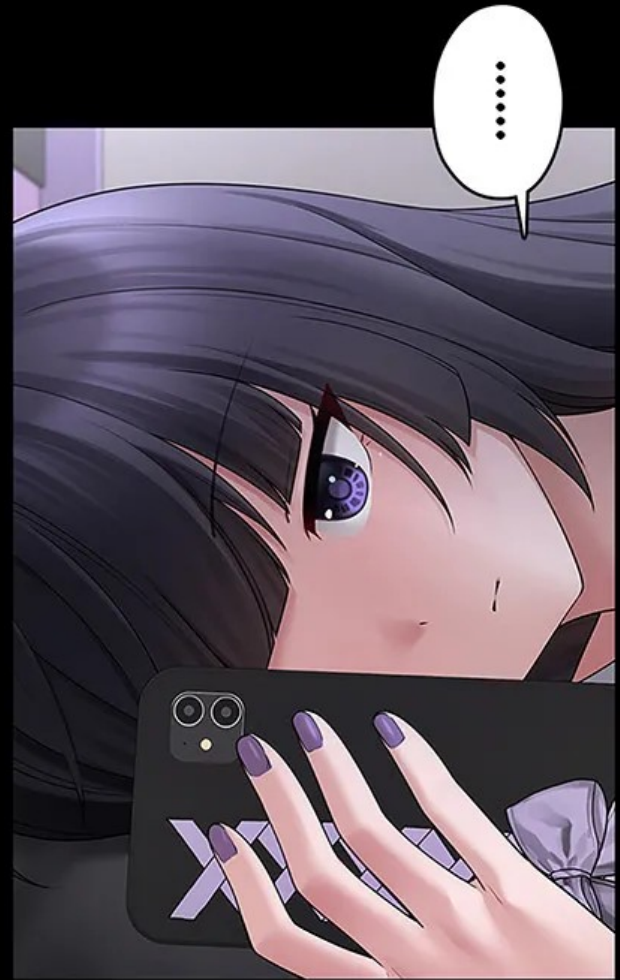
世界で一番
素敵な
お兄ちゃん！



そっ

はあ

今ではきょうだいが
結婚できないことも
ちゃんと分かっている



...



はあ
はあ

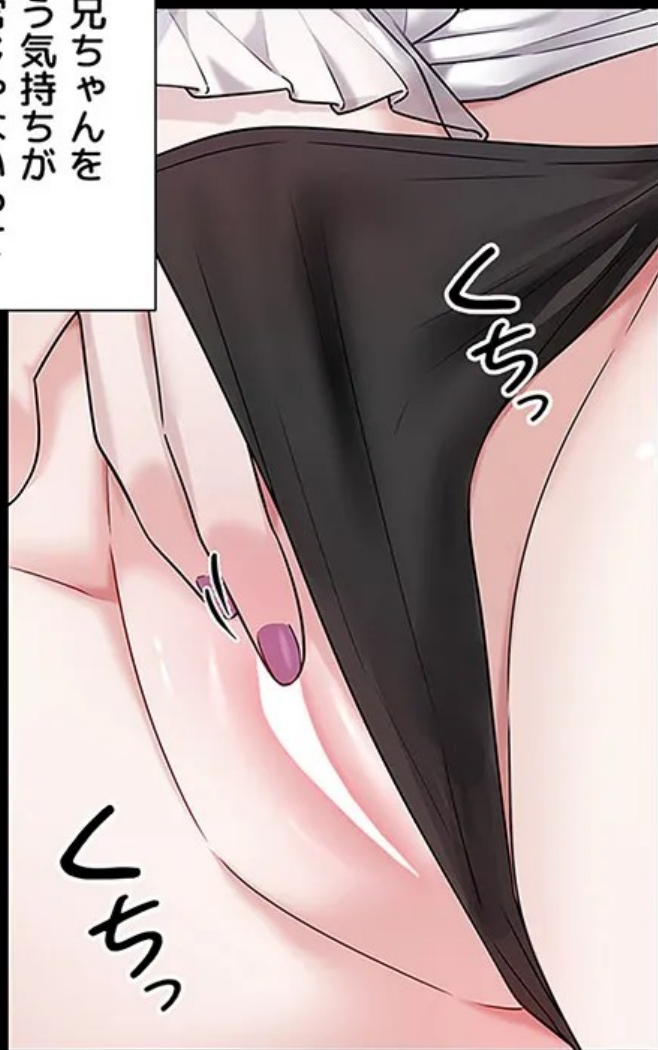


プル
プル



はあ
んん

お兄ちゃんを
思う気持ち
尋常じゃないって
自覚もある



禁断だの
何だの
言うけれど

んんっ…ふう…
お兄ちゃん…



そういう障害物を
乗り越えるのが
究極の愛じゃ
ないかな



あっ…
お兄ちゃんああん…



お：
お兄ちゃん…



キ
ゃああ!!



じゃあ
どうしろって
いうんだよ…



だからって
あの状況を見て
スルーする!?

み…
見せて…



変に声掛ければ
お前が恥ずかしく
なるだけだろ！



えっ？



め…めあり
お前…!!



あ…あたしが
シてるどころ
見たんだから…!!

お兄ちゃんが
スるのも
見せてよ!!









知らない
番号からだ…



甘やかされて
育った彼女は

このとき初めて
心の痛みを
味わうことになる



もしもし?





急に
どうした?

はっ
はっ



お...
お兄ちゃん!



ん

!?

事故に遭って
救急で
運ばれたって...



お...お母さんと
お父さんが...



怖アア

怖アア



めありは両親の
最期と葬式に

顔さえ
出さなかった





めあり…？



痛みを知らずに
育ったためありは

愛する人の死を
受け入れることが
できなかった



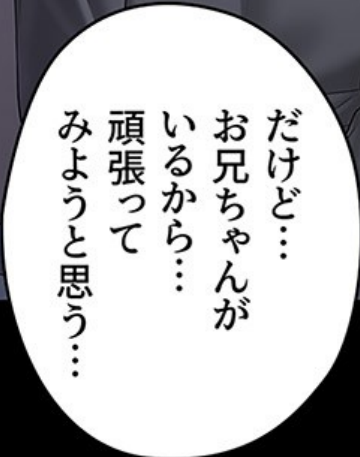
お兄ちゃん…



一緒にご飯でも
食べよう…
何か食べないと…









お兄ちゃん大好き…あのね
お兄ちゃんしかいないの
お兄ちゃんもそうでしょ？
もうこの世で二人っきり
でもお兄ちゃんは少し
寂しいかもしれない
でもあたしは大丈夫
お兄ちゃんがいるから
側にいるよね？
？ そうだよね？

じゃあ…

本当…？

もちろん…

あたしたち



もっと早く
気付くべきだった

へっ…？

エッチしよう





自称ブラコンを理由に執着してきたけど



思春期をとうに過ぎてても

いつも僕にべったりで



お兄ちゃん…
好き…



お兄ちゃん
最高!!
えへへへ

もっと真剣にめありの感情に向き合わなければいけないかった

もっとめありの気持ちを理解しようとするべきだった

成長期特有の一次的な感情だと軽く考えていた

僕はそんな彼女の愛情表現を





へっ？

らやらしらこと
しようってば



セッ○ス
しようよ

セッ○ス



なっ…

何言ってる
んだよ？



はっ…

めあり



好きな漫画で
読んだんだ

セッ○スは
愛し合ってる
人同士が幸せになる
魔法だって

僕らは
家族で

さっき言った
好きってのは
そういう意味
じゃないだろ

今でも鮮明に
覚えている

きょうだいだから
ダメっていうの…？

そんなの…

このとき
めありに何て
言ってあげれば
よかったんだろ

違う

少なくとも
この言葉じゃ
ないのは確かだ

お前が妹じゃ
なかったとしても

僕はお前を絶対に
異性として見ない

嘘つき...

いつもあたしの
言うこと聞いて
くれたじゃん

どうせまた
ブツブツ言いながら
最後にはあたしの
言う通りにして
くれるんでしょ？
ねっ そうだよね？

だよね？

お兄ちゃんは
あたしにだけは
すごく優しいじゃん

違う？

何をしても全部
受け入れて
くれるじゃん

何があっても
あたしのこと
愛してくれるじゃん

そうでしょ？

何とか
言っよ

ね？

止まれ

ねっ??

やめろやめろ
言うな言うな

うるさい!!!

こんだけ
可愛がって
やったんだから
いい加減
目覚ませよ!!

いつまで子ども
みたいなこと
言ってるんだよ!!

これ以上
言うな!!

妹つつつても
いつも足手
まといでさ

お前なんて
いないほうが
マシなんだよ!!

ポタ
ポタ

ぷっ
ぷっ
...

ぷっ
...

ぷっ
...





いめんね…

お兄ちゃん…

次回予告



comic Blast

TOPTOON

ステラれる子 3

著者 蘭夢/ぼんだん

発行 Rush!

表紙デザイン CoCo.Design

この物語はフィクションです。
登場する人物・団体・名称等は架空であり、実在のものとは関係ありません。
本作品の全部あるいは一部を無料で複製・転載・配信・送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

© 蘭夢/ぼんだん/TOPTOON